

## 1 研究主題

子どもたちが生き生きと活動する総合的な学習の時間の創造

## 2 はじめに

昨年度より「総合的な学習の時間」は新学習指導要領に則った指導が始まった。今回の改訂によって、総合的な学習でも他の教科と同様に「育成すべき資質や能力及び態度」が具体的に示された。例えば、探究のプロセスとして「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という能力を身に付けることである。そして、その資質や能力を育てるにあたり、小・中学校においても、地域の素材を活用しながら育成することが大切であると言われている。小牧市内の小中学校においても、今日までそれぞれの地域性を生かした「総合的な学習の時間」を各校独自でカリキュラム化し、学習活動を展開してきた。本研究会では、研究主題にもある「子どもたちが生き生きと活動」できるよう、①どのように自ら課題をもたせるか、②課題を解決するために情報をどのように集めさせるか、③整理・分析をどのようにすると良いか、④整理したことをどのようにまとめ表現するかなどの各校の取り組みを、実践報告をもとに、研究や情報交換を行った。

## 3 研究経過

本部会では、毎回小学校部会・中学校部会に分かれて研究を行った。各部会の中で、月ごとに検討するテーマを設定し、そのテーマに沿って、各校での取り組みや成果、課題などの意見交換を行った。その際に、実際に使用した指導案や提案文書、子どもに配布した資料をもち寄った。またその資料は、全校で共有できるよう、市内イントラネットの交換箱内にフォルダを作成して蓄積できるようにした。

## 4 研究の概要

### (1) 小学校部会

小学校部会では、各校の実践報告・情報交換を中心に行った。各校の実践報告では、地域の特色を十分に生かし、活動に取り組む様子が報告された。また、その活動をより充実させるために、地域からゲストティーチャーを招いて授業を行ったり、工場を見学したりするなど、各校周辺の地域の方々の協力を得て、活動をより充実させている現状を知ることができた。さらに、各校が学校全体の総合的な学習の時間の実践報告を行うことで、学年間のつながりや、発達段階に応じて学ばせるべきことは何があるのかを話し合った。

そして、実践に対するまとめの仕方や、評価の方法を話し合うことで、よりねらいに迫れる課題はなかったのか、子どもたちの実態に沿った手立てはどのようなものがあったかなどを、意見交換をした。

## (2) 中学校部会

中学校部会では、全校で行われている「職業人体験学習」についての実践報告を行った。毎月のテーマは、各校で設定された学習課題について、どのように追究していくかを中心に、細かく設定した。具体的には、受け入れ事業所や人数だけでなく、事業所の種別や生徒の実際の活動状況である。話し合う際、各校で配布している資料を持ち寄った。そして、その資料をもとに、どのように指導を進めていくとより深く学ぶことができるかを中心に話し合った。また、総合的な学習の時間の一環で、進路学習と結びつけて「上級学校訪問」を実施している学校もあった。今後の進路指導や進路選択に向けて、どのようにこの学習とつなげていくか、また訪問後にどのような発表を行うと、より多くの生徒が理解し、深く学べるかということを話し合った。

## 5 成果と今後の課題

### (1) 小学校部会

学校や学年、地域の特色を生かした取り組みをすることで、子どもたちは自分たちの生活と地域との関わりについて意識することができ、意欲的に活動につなげることができた。また、まとめる際のパソコンのリテラシーなどの課題について、他校の実践報告から得たものを、自分の指導に生かしていくことができた。そして、次の学年を見据えて系統的に指導をしていくことで、より効果的な指導ができることが分かった。児童の「生きる力」を育むために、どのような内容を精選して取り組むとよいのかを、今後も検討していきたい。

### (2) 中学校部会

学習後のまとめ・発表方法など、各校がどのようなねらいをもって工夫し、生徒の勤労観や職業観を高めているかを知ることができた。この研究会において意見交換や資料の共有ができたことで、新たな手立てを考えて自校での実践につなげることができた。特に「職業人体験学習」では、各校の受け入れ事業所一覧を、各校の計画の参考にすることができた。それに伴い、生徒が選択できる業種の幅も広がり、より深く、自ら学びたいと意欲的に取り組むことができた。次年度以降も、新学習指導要領の「地域の素材を活用した育成」を念頭に置き、各校が独自に行っている地域との関わりに関する実践等の情報や意見交換を行っていききたい。そして、生徒がより生き生きと活動できるような手立てをさらに検討していきたい。